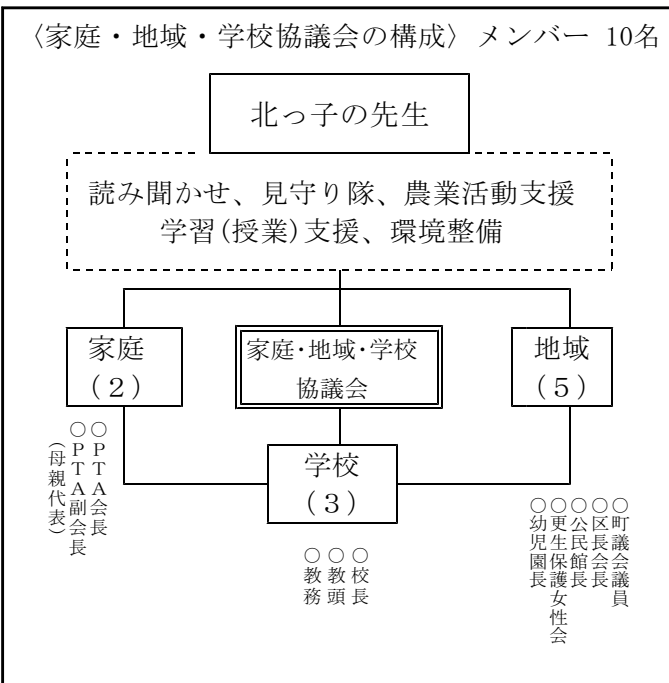


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

第1回：令和元年5月
 ○組織の決定
 ○学校運営に関する説明
 ○「北っ子の先生」の活動の進め方
 ○「地域と進める体験推進事業」の説明

第2回：令和元年11月
 ○児童の姿から
 ○学校教育活動の点検

第3回：令和2年2月
 ○学校教育活動の評価
 ○今年度の課題と来年度への方策

地域コーディネーター（6名）

- ・町議会議員 志比北振興連絡協議会会長
- ・志比北公民館長 浄法寺山岳協会会長
- ・更生保護女性会員
- ・北地区区長会長
- ・志比北幼稚園長
- ・志比北小学校PTA会長

(2) 協議会における成果と課題

- ・地域の方を「北っ子の先生」として招き、農業体験活動、読み聞かせ、校地内の環境整備、クラブ活動や授業の支援など多岐にわたった。
- ・11月に行った「ふれあい集会」では、「北っ子の先生」が全校児童に学校の歴史を紹介したり、児童が感謝状を渡したりなど、地域との交流の場になった。
- ・学校便りやPTA広報紙を区長会の協力を得て地区の全戸に配布・回覧をすることで、学校の教育活動を地域に知らせることができた。
- ・地域に開放する学校行事や活動をもつことにより、積極的に地域との交流を行うことができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の豊かな物的・人的資源を生かし、これからの社会をたくましく生き抜く力を育む学校づくりに取り組む。

(2) 活動の実際

① 『われら志比北探検隊』（3・4・6学年）

6年生は吉波地区にある石碑や史跡などを地域の方に紹介していただきながら、地区の歴史を勉強した。地区に住んでいながら知らないことばかりだったので、地域の方にはさらにゲストティーチャーとして学校に来て教えていただき、学んだことを11月のふれあい集会で発表した。



3・4年生は、米作りや大豆の栽培と関わらせ、地域の伝統料理の継承や地場農産品のPRに取り組んでいる『若鮎グループ』に協力をお願いした。大豆の栽培や加工食品について調べたことをふれあい集会で発表したほか、3年生が栽培した大豆を打ち豆にし、参加者に配布した。



②『米づくりにチャレンジ』（4・5学年）

4・5年生は昔ながらの米作りに取り組んだ。夏休み中もそれぞれ交代で稲の生育を記録し、気温や肥料をまく時期と生育の関係を調べたり、田んぼとプランターで育てた場合を比較したりした。わからないことは地域の方に質問して疑問を解決した。また、伝統料理の『葉っぱ寿司』について若鮎グループの方に質問し、実際に作り方を学び、米作りとともにふれあい集会で発表した。



③『九頭竜川の生き物』（4・5・6学年）

4・5・6年生はアユやサクラマスなど九頭竜川の生き物について学習した。鮎の養殖場を見学させてもらったり、内水面総合センターで九頭竜川の生態系について講義をしてもらったりした。また、威縄漁の見学や鮎の人工授精を体験させてもらい、4年生が九頭竜川的环境と生き物についてふれあい集会で発表した。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・米作りや生き物について出前授業をする外部講師の紹介をする。
- ・児童と一緒に地域を歩き、現地調査の支援をする。
- ・「志比北小学校のあゆみ・平成版」を学校の古いアルバムや地域の方に提供していただいた写真をまとめて1枚のCDとし、ふれあい集会で発表した。



（4）特に工夫した事項

- ・ふれあい集会で発表するにあたって、それぞれの学年でよく話し合い、低学年や地域の方にも理解してもらえるような発表の仕方を自分たちで工夫した。
- ・ゲストティーチャーによる実技指導を取り入れるなど、地域の方と連携することができた。

（5）成果と課題

本校は全校児童34名という小規模校であり、以前から地域と密接に連携できる環境である。この事業も3年目となり、教員も活動の見通しを持てるようになったため、年度当初からどの学年も地域コーディネーターの方々と連絡を取り合い、計画的に活動をすすめていくことができた。また、地域と連携しながら学校教育活動をすすめていくことも定着した。作物の栽培や加工、地域の歴史などについて、これまで以上に多く地域の方に協力してもらうことが増えた。また、1年間の活動の成果をまとめ、地域に向けて発信する「ふれあい集会」では、自分たちの取り組んできたことを模造紙に書いてまとめたり、プレゼンテーションソフト等のICT機器を利用して発表する学年も多く見られた。本事業は本年度で終了するが、今後も地域と連携し、地域の願いと関わらせながらたくましい児童の育成に努めていきたい。